

地域福祉活動情報紙 No.12

なばりんく



2・3月号



今年の年男四人組!

すずらん台地域『どんと』



しあわせ写真

(関連記事2P)

まちびと探し

今月の
まちびとさんほりかわ ひであき
堀川 秀昭さん(69)

定年後に区長になったことをきっかけに、地区社会福祉協議会会長や放課後児童クラブ会長、配食ボランティア活動、ふれあい・いきいきサロン活動など地域の福祉活動の中心として活躍してこられた堀川さん。現在は、地縁法人美旗まちづくり協議会の福祉部会長として活動されている。毎年実施される子育てサロン「みはたっこ」のクリスマス会では、サンタクロースになりきり、参加している子どもたちにも親しまれている。

『地域のために尽くす!!』をモットーに、これまでの活動を通じた人とのつながりを大切にしてきた背景には、配食ボランティア活動でお弁当を届けた際に、利用される高齢者から涙ながらに「ありがとう」と言ってもらえることやバレンタインデーにチョコレートをプレゼントされたりすることで、高齢者から元気をもらい、また子育てサロンの子どもたちからは、たくさんの笑顔をもらうことが出来たためであると話される。

今は元気や生きがいの源となった配食ボランティア活動の一線からは離れているが、「時間や余裕ができればカムバックして、地域のために尽くしていきたい」と力強く語ってくれた。

地域ピックアップ!

《すずらん台地域》 どんど

すずらん台地域で「どんど」を始めたきっかけは、この地域での行事が夏祭りしかなかったため、子どもたちの思い出作りと、無病息災を願う行事として始め、今年で9回目になります。

最初は美旗地域の人に作り方の指導を受け、どんど作りに使う竹やわらの材料は、滝之原地域から提供してもらいスタートしました。材料は今でも協力を受けているそうです。現在は夏祭り、敬老会、市民センター祭りと共に、すずらん台地域の四大大行事の一つになっています。

平成20年からは、すずらん台子ども活動支援推進の会(夢クラブ)が中心となり、小学校PTA・町づくり協議会・学習の森ボランティアの会・民生委員児童委員などで構成する「どんど保存会」を作り、毎年実行委員を募集し、実施しています。

子どもから高齢者まで集まってする今年の「どんど」は、1月13日(日)



に行われ、小学4年生の年男4人が点火し、参加したみんな、竹を割った長い棒に挟んだお餅を焼いたり、お酒を飲んだりしながら楽しいひと時を過ごし、一年の健康を願いました。

※どんど焼きの由来:「どんど焼き」とは小正月(こしょうがつ=1月15日)の行事で、正月の松飾り・注連縄(しめなわ)・書き初めなどを家々から持ち寄り、一箇所に積み上げて燃やすという、日本全国に伝わるお正月の火祭り行事です。一般的には、田んぼや空き地に、長い竹(おんべ)や木、藁(わら)、茅(かや)、杉の葉などで作ったやぐらや小屋(どんどや)を組み、正月飾り、書き初めで飾り付けをしたのちそれを燃やし、残り火で、柳の木や細い竹にさした団子、あるいは餅を焼いて食べるという内容で1月15日前後に各地で行われます。どんど焼きの火にあたり、焼いた団子を食べれば、その1年間健康でいられるなどの言い伝えもあり、無病息災・五穀豊穡(おびょうそくさい・ごこくほうじょう)を祈る民間伝承行事です。



サロン活動紹介

薦原地域「コミュニティカフェ」

コミュニティカフェは、自分たちの居場所づくりのため、またみんなが立ち寄れる場所をつくるという目的で、平成22年から薦原地域の人を対象にして開店しています。場所はみんなが一番集まりやすい公民館に決定しました。

参加されている方から、「開店当時から、友達と車に乗り合わせて来ています。毎週みんなとお話をすることを楽しみに参加しています。」「公民館へ来ることで、行事もよくわかり、いろんな活動に参加しています。」等の声も聞かれました。

公民館の職員さんや配食ボランティアグループ、地域の



方が会議の後などに寄ってくれたり、農作業の帰りに立ち寄ってくれる方もいて、大きな声で笑い、みんなでワイワイと楽しい時間を過ごしています。

【開催日時】
毎月月曜日
13:30~15:30
【開催場所】
薦原公民館

メニュー
★コーヒーセット
※パン又はケーキ付:220円
★コーヒー:100円
※お好み自由

トーク ボランティアリレーTalk!

たけお けいぞう
竹尾 敬三さん (川の会・名張事務局長)



平成2年8月に、名張市梅が丘に引っ越しをしてきてから、今年で23年目になります。引っ越しをしてからしばらくして、きっかけは水車発電だったのですが、川の会・名張の皆さんと知り合いました。そして、毎年6月に2週間程度城下川(じょうげがわ)に花いかだを設置していることを知りました。そのお手伝いを始めたのは平成5年からです。花いかだの設置は平成2年(1990年)から始まりました。

最近では、「いつから花いかだの設置をするのですか?」と問い合わせがあるほど年行事として定着しています。なぜ、そんな活動をする

の? 「みんなに川が汚れないように分かってもらえるようにしたいから。」ボランティアってそんなものではないでしょうか。

また、昨年から、なばり自然エネルギー推進協議会の事務局も引き受けています。なぜ? って聞かれたら、「何とか地産地消のような形でエネルギーを使えないかと思っているから引き受けました。」と返事します。多くの人と知り合えることが自分にとってとても大事なことになっています。

★竹尾さんの著書:「小型水力発電機製作ガイドブック」「水と旅する」:パワー社刊



花いかだ

音楽工房

便り♪「高校三年生」



“みんなでいっしょに唄いませんか”

◆2月18日(月)

◆時間: 10:30~11:30

◆会場: 名張市総合福祉センター
ふれあい

◆対象: 市内在住の人

◆3月12日(火)

◆時間: 10:30~11:30

◆会場: 名張市総合福祉センター
ふれあい

◆対象: 子育て中の親子(市内在住)

※対象者に合わせて、子ども中心の歌になりますが、市内在住の方ならどなたでもご参加いただけます。

※参加費無料・申込み不要

今回は舟木一夫さんの「高校三年生」です。3月は卒業のシーズン。この曲を聴くと卒業式を迎えた日の事を思い出します。青春時代が甦ってくるという方も、おられるのではないのでしょうか。

「高校三年生」は舟木一夫さんのデビューシングルで昭和38年に大ヒットしました。高校生活が残り少なくなった、高校三年生のいろんな気持ちが歌われています。学生服を着た、舟木一夫さんの姿はとても印象的です。

舟木一夫さんは、西郷輝彦さん、橋幸夫さんと共に御三家と呼ばれ、「高校三年生」のヒット後、学園三部曲といわれた「修学旅行」「学園広場」も歌われました。

この歌が流行していたころから高度経済成長が始まるのですが、学校を卒業する若者たちは、夢や希望に胸膨らませていたことでしょうか…。

“みんなでいっしょに唄いませんか”で皆さんも懐かしい昔の歌と一緒に楽しく歌いませんか? 大きな声を出してスッキリしましょう! まだまだ寒い日もありますが、お身体ご自愛ください。

《在宅介護者のつどい(日帰り)のご案内》

在宅で介護をされている方に、日頃の疲れを癒していただくため、下記のとおり食事会を開催します。

ゆっくり温泉につかり、食事をしながら、介護仲間と一緒に一息ついてみませんか

日 時: 平成25年3月6日(水)

11:00~14:20

場 所: 青蓮寺レークホテル

対象者: 現在、在宅において高齢者・障害者の介護をされている名張市在住の方(定員10名)

参加費: 3,000円/人

申込み: 申込書にて、平成25年3月1日(金)までに参加費を添えて名張市社会福祉協議会へお申し込みください。

協 力: 名張市家族介護者の会「楓の会」

2月、3月の介護者サロン “さくら喫茶”



開催日: 2月19日(火)
3月13日(水)

上記いずれも

開催場所・時間

名張市総合福祉センターふれあい

13:30~15:30

参加費: 100円(申込み不要)

※お茶やお菓子を用意してお待ちしています!

手づくりレシピ紹介

『レンコン団子の具たくさんスープ』

～サロンや地域の集まり、ご家庭で作ってみませんか～

★れんこんには疲労回復や風邪をひきにくくする作用がある
ビタミンCが多く含まれています!

材料(4人分)

- ・レンコンのすりおろし…200cc
- ・薄力粉……………大さじ6～8
- ・塩……………小さじ1

・スープ

- (A) { 鶏ガラスープの素…大さじ1
水……………500cc
酒……………大さじ2
塩……………小さじ1
醤油……………小さじ2

・具

- { 人参……………60g
生椎茸……………4枚
里芋……………4個
なめこ……………1袋

『作り方』

- ①レンコンはすりおろして軽く汁気を切り薄力粉と塩を加えて混ぜる。(手で持って汁がたれてこない程度に絞る。汁が多いとスープに落としたときに散ってしまう。この場合は薄力粉を足す。)
- ②人参は皮をむいて5mm厚さの半月切りに、生椎茸は軸を取っていちよう切りに、里芋は皮を向いて1cm厚さの輪切りにする。
- ③鍋に(A)を沸かし人参、里芋、生椎茸を入れて火を通し、①をスプーンで一口大にすくい落とし入れ、弱火にして火を通す。なめこも加えてさっと火を通す。味を確認して不足なら塩を加える。出来上がり!



☆レシピ提供・協力:里お達者クラブ ☆蔵持町里で行われている同サロンは、毎月第3木曜日に、参加者それぞれが作った旬の野菜を持ち寄って、参加者みんなで調理・盛り付けを行い、一緒に食べて楽しい一時を過ごしています。

名張のむかしを歩もう!

元町は、明治から昭和7年までは瀬古出と呼ばれていました。それ以降は元町と改正され現在に至っています。

明治36年に鶯座が建築され、昭和30年頃までは映画館並びに演劇場として東映映画・松竹映画の上映や、有名な俳優・歌手・落語家などが来演され繁栄を伺わせた頃でした。それに加え、町には名張最大の魚市場があり、朝の競り市で毎日賑わっていました。町には米竹旅館・寺新旅館があり、その頃は宴会・結婚式場として賑やかな時代でもありました。大正・昭和初期時代町の中を流れる小川には、鮎その他小魚がたくさんおり、又、野菜・洗濯物など洗っていた頃でもあり、子ども達も水遊びを喜んでいました。現在のイオン店(旧ジャスコ店)の前は、昭和49年3月29日以前は、高北農機具製作所があって、今の敷地に工場と農機具の試験場があり、生産高は日本一でした。町並では、考えられない程、八百屋さん、鉄工所、薬屋さん、化粧品店などがあり、大変繁栄していた町でした。名張の秋祭りには太鼓台が出て、町中を賑やかに練り歩いた頃もありましたが、5・6年前から吊り子が集まらず、又、少子化によって太鼓を叩く子どもがいないことで、出場を取りやめざるを得なくなりました。



おきつもを語る会 上田 力造

協力:おきつもを語る会

(同会は、名張の昔について、見聞や体験で得た習慣、行事など座談会を通じて参加者と共に語り合い、資料にまとめ冊子にするなどして、多くの人に名張の歴史や文化を伝える活動を行っているボランティアグループです。)

発行:社会福祉法人 名張市社会福祉協議会

名張市丸之内79番地

名張市総合福祉センターふれあい内

電話番号 63-1111

FAX番号 64-3349

ホームページ <http://www.nabarishakyo.jp>Emailアドレス volunteer@nabarishakyo.jp

発行部数:1,220部

《設置場所、協力店舗》

総合福祉センターふれあい、市民情報交流センター、各公民館・市民センター、こども支援センターかがやき、武道交流館いきいき、名張郵便局、錦生簡易郵便局、近大高専、名張市役所、名張市立病院、総合体育館、協力店舗(いいの、吉野豆腐、大為陶器、はなびし庵、矢の五薬局夏見店、山平たばこ店、café*mkuk、booksアルデ、サロンきずな、やなせ宿、ひまわり書店、大和屋)、東整形外科

※設置協力店舗募集中です!

《名張市内の中学校では、クラス掲示をしていただいています。》

★地域福祉活動情報受付中!『地域で子どもや高齢者と一緒にこんな活動しています』『サロンでこんな活動しています』『地域でこんな福祉活動している人がいます』などなど…。情報をお知らせください。社協職員が取材に伺い情報発信していきます!

次のなばりんくは4月1日発行予定です。